

**令和元年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会
子宮がん部会 概要**

1 日 時：令和2年1月20日(月) 13:30～15:00

2 場 所：岐阜県シンクタンク庁舎 1-1 会議室

3 出席者：

	氏名	所属
委 員	横山 康宏	岐阜県総合医療センター女性医療センター長・女性科部長
	石原 恒明	岐阜県医師会 理事
	波多野 裕一郎	岐阜大学大学院医学系研究科腫瘍病理学分野
	西脇 麻菜美	市町村保健活動推進協議会保健師部会 (郡上市)
オブザーバー	小山 貴広	関保健所 所長
事務局	加納 美緒	次長兼保健医療課長
	赤尾 典子	健康推進室長
	井上 玲子	主幹兼がん対策係長
	中島 早映	技術主査
	上口 大輝	主事

4 内 容：

報告：1 平成30年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会子宮がん部会議事

2 岐阜県のがんの現状等

- ・子宮頸がんの75歳未満年齢調整罹患率は全国より高く、都道府県順位も43位である。子宮がん死亡率も年次推移で全国を上回っており、今後も対策の継続が必要。
- ・子宮頸がんの初回診断時の進行度では、近年緩やかながら早期発見が増えていることが分かるが、Ⅲ・Ⅳ期で発見される者のがん検診受診歴や年代等を分析してみる必要がある。

3 がんの予防(子宮がん検診)の推進について

(1) 正しいがん検診の実施

- ・検診受診時に症状のある者に対しては、医療機関では検診以外の他の検査の必要性を伝え、保険診療に誘導するケースが多い。
- ・検診結果を通知する際のミスを防ぐためには、なるべく人の手を排除する仕組みが必要。検診機関が発行した結果票そのものを添付して受診者へ送付する形が望ましい。
- ・HPV併用検診については、「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2018年度ドラフト」で推奨グレードBとされているが、国で統一されたアルゴリズムは未確立。今後も国の動向や県内市町村の取り組み等を確認していく。
- ・医療機関では液状検体を用いた細胞診が普及してきており、今後市町村の行うがん検診でも使用拡大していくことが考えられる。

(2) がん検診マネジメント

- ・子宮頸がん検診は確定診断に近い検診である。要精検者は個別管理として、その後の経過を追跡することが望ましい。
- ・経年的に要精検率が高く、許容値を満たしていない市町村・検診機関に対しては、他機関等と比較ができるプロセス指標値を還元し、改善を促す通知を行う。診断の精度向上のためには専門医同士で集まり、学習機会を設ける等の取組みが必要ではないか。

(3) がん検診の受診率向上対策

- ・検診未受診者（特に若年層）への勧奨を積極的に行い、受診率向上につなげることが重要。

4 その他意見交換

- ・子宮頸がんの予防のためにはがん検診と共に、HPV ワクチンの接種が効果的とされるが、国としては積極的勧奨を控えている。接種にあたっては副反応を含めたリスクコミュニケーションを十分に行う必要がある。

⇒上記協議結果について、市町村及び検診機関に周知を行い、精度向上に向けた取組みを促していく。